

## ■ 概況

3/5~3/11のNYMEX・WTIは、31.13~45.90ドルの範囲で推移した。

3月12日は、トランプ大統領は英国を除く欧州からの渡航を30日停止、米国ではプロバスケットの試合やメジャーリーグのオープン戦の中止など、感染拡大の影響、さらに、OPECプラスの協議決裂を受け、サウジに続き、UAE、クウェート、ナイジェリア等も増産姿勢を示していることから、続落した。4月限終値は前日比1.48ドル安の31.50ドル。

週末13日は、前日までの暴落を受けて、ポジション調整の買いや安値拾いの買いが広がり、反発した。米国株価の急回復も上昇要因となった。ペカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は683基と前週比1基増。4月限終値は前日比0.23ドル高の31.73ドル。

週明け16日は、中国の本年1~2月の成長率が前年同期比13.5%減と30年ぶりの低水準となるなど、新型肺炎ウィルスの感染の影響拡大への懸念、16日・18日予定のOPECプラスの会議が中止になるなど、増産による「価格戦争」への懸念から急反落し、2016年2月中旬以来の安値を付けた。株価も暴落しており、米国連邦準備制度理事会（FRB）の1%の緊急利下げも大きな効果はなかった。4月限終値は前週末比3.03ドル安の28.70ドル。

17日は、引き続き、新型ウィルスの感染拡大に伴う世界経済の後退懸念とOPECプラスの協議決裂によるサウジ等の増産姿勢で、大幅続落した。米国株価も、過去最大の下げを記録した。4月限終値は前日比1.75ドル安の26.95ドル。

18日は、新型コロナウィルスの感染拡大に伴う石油需要の減少とOPECプラスの減産協議の決裂に伴うサウジ・ロシ

ア等の増産で、供給過剰がさらに拡大するとの懸念から、大幅に続落し、2002年2月以来の安値を記録した。この日発表の米国エネルギー情報局（EIA）の週報は、前週末の原油在庫が前週末比増加と8週連続の積み増しとなった。4月限の終値は前日比6.58ドル安の20.37ドル。

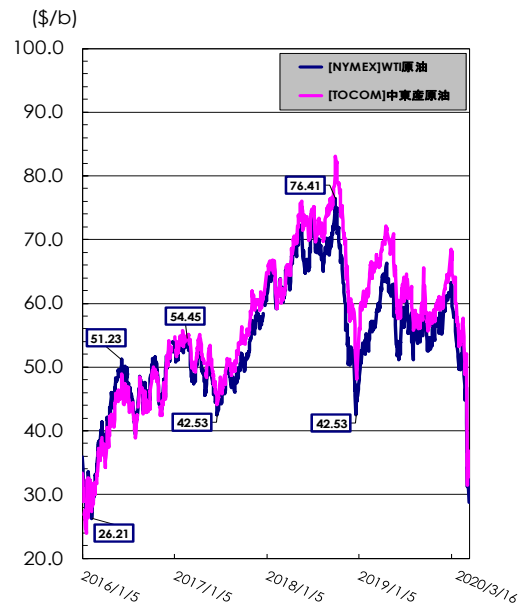
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（5月渡し）は3月5日~3月11日の間31.30~51.30ドルの範囲で推移した。3月12日32.20ドル、13日32.70ドル、16日31.80ドル、17日31.10ドル、18日29.10ドルと推移した。

為替は3月5日~11日の間102.01~107.53円の範囲で推移した。3月12日104.60円、13日105.17円、16日106.91円、17日106.60円、18日107.39円で移した。

財務省が3月18日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格は、48,179円/klで、前旬比210円安、ドル建て69.84ドルで前旬比0.66ドル安。為替レートは1ドル/109.69。また、同日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、2月の原油輸入平均CIF価格は、48,644円/klで、前月比327円高、ドル建て70.62ドルで前月比0.35ドル高。為替レートは1ドル/109.50。

そのような中で、3月16日時点の小売価格は、ガソリンが前週比2.9円の値下がり、軽油も同2.7円の値下がり、灯油は33円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリンは8週連続の値下がり、軽油は7週連続の値下がり、灯油も7週連続の値下がりだった。この週（3月第3週）の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに8.5~9.0円の値下げとなった。

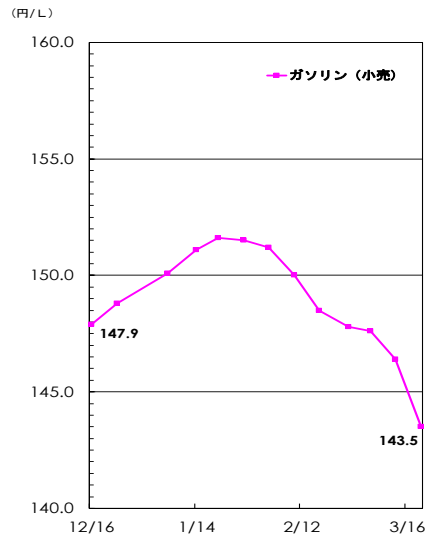
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/8 ~ 3/14	3,232 ▼ -53	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.5 ▼ -1.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/14	11,238 ▼ -61	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	3/16	32.81 ▲ 1.43	▼ -33.9
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	3/16	28.70 ▼ -2.43	▼ -30.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月下旬	69.84 ▼ -0.66	▲ 7.58
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	48,179 ▼ -210	▲ 5,245
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.69 ▼ -0.56	▼ -0.05
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/16	107.91 ▼ -4.90	▲ 4.67



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/8 ~ 3/14	950 ▲ 5	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	741 ▼ -109	▼ -	
	輸出	"	72 ▼ -67	▼ -	
	在庫	3/14	1,817 ▲ 138	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/10 ~ 3/16	45.4 ▼ -6.1	▼ -14.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/10 ~ 3/16	36.4 ▼ -8.8	▼ -20.7
		(TOCOM/中部)	3/16	37.5 ▼ -13.0	▼ -22.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/16	143.5 ▼ -2.9	▼ -1.8	

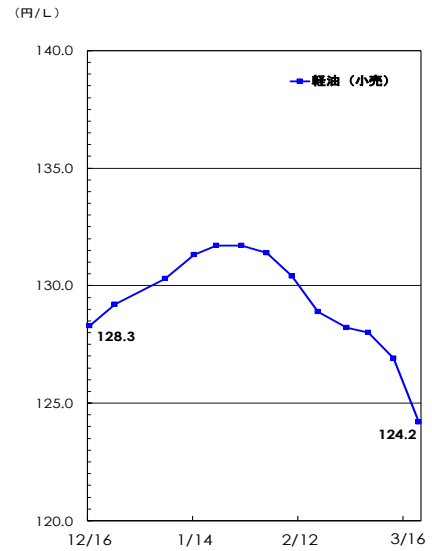
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

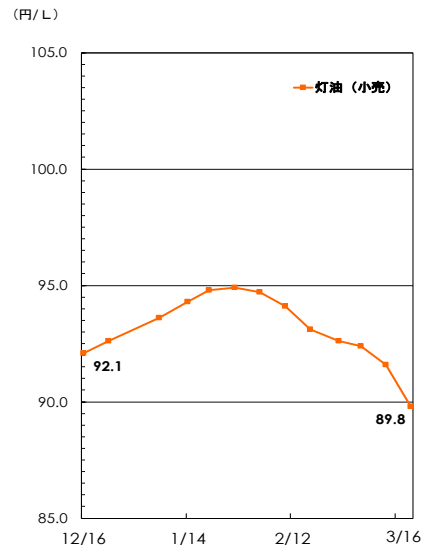
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/8 ~ 3/14	696 ▼ -1	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	551 ▼ -76	▼ -	
	輸出	"	55 ▼ -49	▼ -	
	在庫	3/14	1,398 ▲ 91	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/10 ~ 3/16	51.5 ▼ -4.7	▼ -11.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/10 ~ 3/16	51.6 ▼ -5.3	▼ -13.0
		(TOCOM/中部)	3/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/16	124.2 ▼ -2.7	▼ -2.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/8 ~ 3/14	208 ▼ -137	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	256 ▼ -175	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -49	▶ -	
	在庫	3/14	1,379 ▼ -48	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/10 ~ 3/16	49.6 ▼ -5.5	▼ -13.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/10 ~ 3/16	39.5 ▼ -7.7	▼ -23.4
		(TOCOM/中部)	3/16	41.0 ▼ -10.0	▼ -22.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/16	89.8 ▼ -1.8	▲ 0.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月18日のNYMEX市場WTI原油は、新型コロナウイルスのさらなる感染拡大に伴う石油需要の減少とOPECプラスの減産協議の決裂に伴うサウジ・ロシア等の4月からの増産で、供給過剰がさらに拡大するとの懸念から、大幅に続落、2002年2月以来の18年1か月ぶりの安値を記録した。米国株価も暴落し、投資家のリスクオフが進行、現金が選好され、外国為替市場ではドル高が進んだ。この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報は、前週末の原油在庫が前週末比増加と8週連続の積み増しとなり、米国産油量も増加した。4月限の終値は前日比6.58ドル安の20.37ドル

ル、5月の終値は同6.50ドル安の20.83ドル。

EIAによると、3月16日時点のガソリンの小売価格は、前週比12.7セント値下がりの1ガロン2.248ドル(64.0円/ℓ)、ディーゼルは同8.1セント値下がりの2.733ドル(77.8円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは10週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年3月8日～3月14日に休止したトッパー能力は28.0万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は323.2万klと、前週に比べ5.3万kl減少。前年に対しては33.2万klの減少。トッパー稼働率は82.5%と前週に対して1.4ポイントの減少、前年に対しては8.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.6%増、ジェット/3.1%増、灯油/39.7%減、軽油/0.1%減、A重油/16.3%減、C重油/6.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は5.5万kl(前週比4.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、C重油で増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は74.1万kl(対前週12.9%減)と2週振りで減少となり、30週連続で100万klを下回った。ジェット9.8万kl(対前週28.6%増)、灯油25.6万kl(対前週40.6%減)、軽油55.1万kl(対前

週12.1%減)、A重油15.0万kl(対前週40.7%減)、C重油15.4万kl(対前週24.9%増)。

(単位：千KL)

	今週 (3/8 ~ 3/14)	前週 (3/1 ~ 3/7)	前週比
ガソリン	741	850	▼ -109 (-13%)
ジェット燃料	98	76	▲ 22 (29%)
灯油	256	431	▼ -175 (-41%)
軽油	551	627	▼ -76 (-12%)
A重油	150	252	▼ -102 (-40%)
C重油	154	123	▲ 31 (25%)
合計	1,950	2,359	▼ -409 (-17%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月14日時点の在庫は、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリンが増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは181.7万kl、前週差13.8万kl増。前年に対しては19.6万kl多い。

灯油は137.9万kl、前週差4.8万kl減。前年に対しては6.1万kl少ない。

軽油は139.8万kl、前週差9.1万kl増。前年に対しては11.1万kl少ない。

A重油は72.7万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては6.0万kl少ない。

C重油は182.0万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては14.2万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (3/14)	前週 (3/7)	前週比
ガソリン	1,817	1,679	▲ 138 (8%)
ジェット燃料	779	752	▲ 27 (4%)
灯油	1,379	1,427	▼ -48 (-3%)
軽油	1,398	1,307	▲ 91 (7%)
A重油	727	707	▲ 20 (3%)
C重油	1,820	1,843	▼ -23 (-1%)
合計	7,920	7,715	▲ 205 (2.7%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月10日～16日の原油価格は、前週比で大きく値下がりし、為替も円高で、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、3月10日～16日の間、ガソリン97～101円台で大きく値下がり、軽油50～54円台で大きく値下がり、灯油48～51円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン99～103円台で大きく値下がり、軽油52～54円台で大きく値下がり、灯油39～41円台で値下がり後やや値を戻して推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン89～91円台で大きく値下がり、軽油51～52円台で値下がり、灯油38～40円台で出入りしつつやや値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、8.5～9.0円の値下げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月10日～16日の製品スポット市況は、3月3日～9日平均と比べ、全油種・全取引で、激しく値下がりした。

直近の陸上スポット価格(3/10～3/16、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは6.1円の値下がり、灯油は5.5円の値下がり、軽油は4.7円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは5.1円の値下がり、灯油は9.4円の値下がり、軽油は3.6円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが8.8円の値下がり、灯油は7.7円の値下がり、軽油は5.3円の値下がりだった。

3月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、8.5～9.0円の値下げになった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (3/10 ~ 3/16)	前週 (3/3 ~ 3/9)	前週比
レギュラー	45.4	51.5	▼ -6.1
灯油	49.6	55.1	▼ -5.5
軽油	51.5	56.2	▼ -4.7

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (3/10 ~ 3/16)	前週 (3/3 ~ 3/9)	前週比
レギュラー	36.4	45.2	▼ -8.8
灯油	39.5	47.2	▼ -7.7
軽油	51.6	56.9	▼ -5.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/10～3/16実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -6.1	▼ -8.8	▼ -7.5
灯油	▼ -5.5	▼ -7.7	▼ -6.6
軽油	▼ -4.7	▼ -5.3	▼ -5.0
A重油	▼ -4.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

3月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.9円安の143.5円、軽油も同2.7円安の124.2円、灯油は18%ベースで同33円安の1,616円(1%ベースでは同1.8円安の89.8円)。ガソリンは8週連続の値下がり、軽油は7週連続の値下がり、灯油も7週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がり47都道府県となった。全国最安値は石川県の138.2円(同3.5円安)、その次に安いのは岩手県の138.8円(同2.7円安)、最高値は長崎県の156.0円(同3.0円安)。横ばいはなし、値上がりもなし、最も値下がりしたのは同4.3円安の北海道(141.4円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、4.0～4.5円の値下げとなった。今週は、原油価格は激しく値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは激しく値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、8.5～9.0円の値下げとなった。次回調査時(3月23日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/16)	前週 (3/9)	前週比	直近高値
レギュラー	143.5	146.4	▼ -2.9	08/8/4 185.1
灯油	89.8	91.6	▼ -1.8	08/8/11 132.1
軽油	124.2	126.9	▼ -2.7	08/8/4 167.4

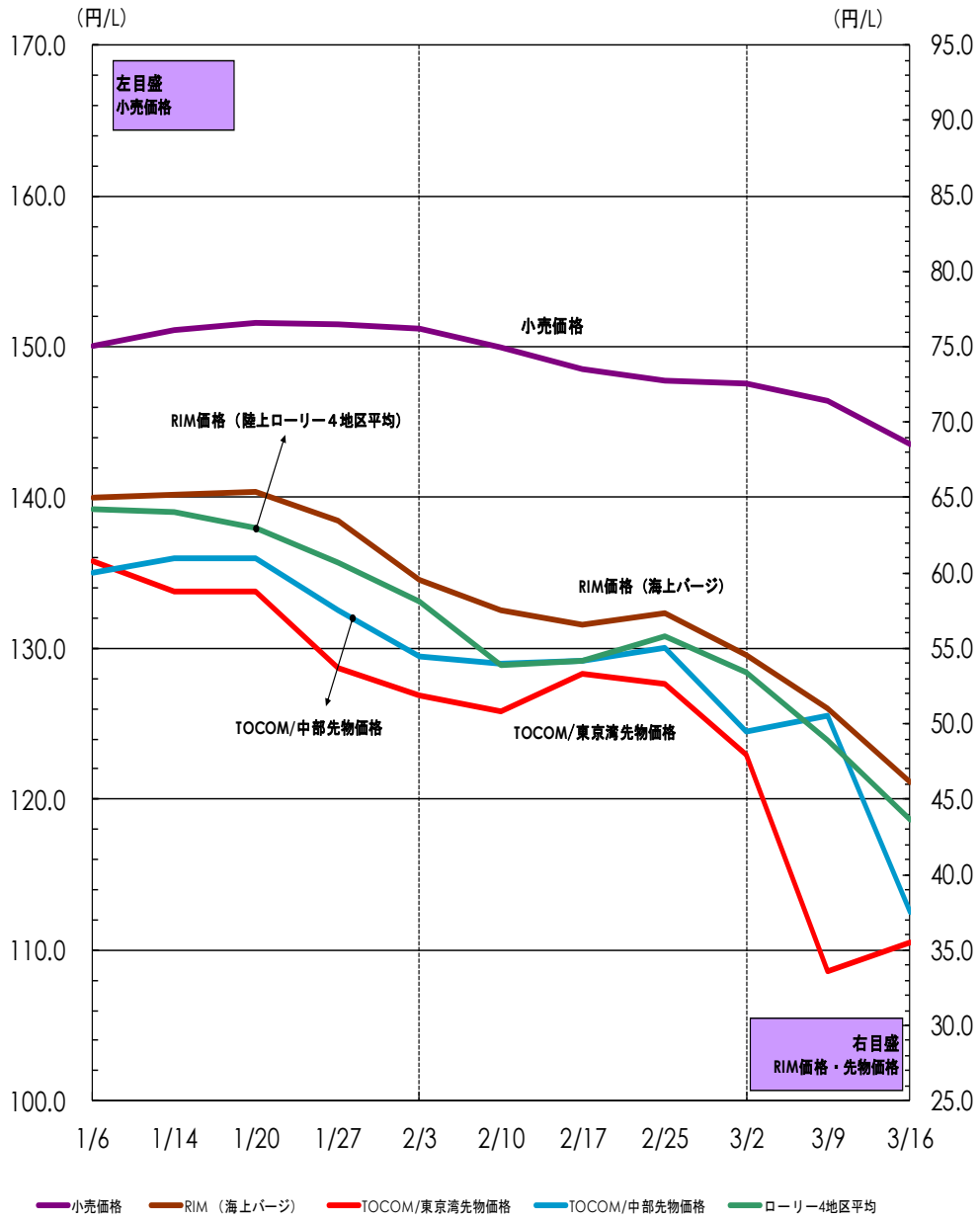
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/1/6 ~ 2020/3/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2019第49号)の公表は、3/27(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。